1　主題構成表

主題名　「勤勉・努力」（小学校第１学年）　　資料名　「シロクマのクウ」

■　内容項目　１－（２）

自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと行う。

■　内容項目から見た児童の実態

（意識）

・家庭学習は、学校で学んだことを身に付けるためにやらなければならないことだという意識はある。
・具体的に何をどのようにどの程度やったらよいか分かっていることは、進んで取り組むことができる。
・教師や保護者等にほめられることで取り組むことができる。
・学習内容が少し難しい問題になると、やらずに提出してしまう子がいる。

（要因）

・面倒だと感じられることや難しい問題に直面したとき、あきらめずにやり抜くことで、達成感や充実感を得られることに気付いていない。

■　価値の分析

・児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことは最後までやり抜くことが大切である。そこには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。ただし、見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結びついてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえる。そのためにも、児童がより高い目標を立てたり自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成感や実現への志をもち、勇気をもって取り組もうとする態度を養っていくことが大切である。
・この時期の児童は、やらなければならないことを素直に受け入れられることが多い。特に、保護者や教師の励ましや賞賛、助言などをもとに、この時期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を、自分でやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導する必要がある。また、やり遂げたときの達成感や充実感を味わい、頑張ることができた自分に気付くことができるようにすることが大切である。

■　資料の分析

・本資料では、シロクマのクウが母親と一緒に毎日魚を獲る練習をする。「今日も」「次の日も」「何度も　何度も」とろうとするが、うまくいかず、くじけそうになるが、それを乗り越え、見事自分で魚を獲ることができたという資料である。
・クウの母親に頼ろうとする甘えや、あきらめてしまいたいという弱さに共感させることができる。
・そして、母親の視線に気付き、苦しくても一人前になるにはやり抜くしかないという思いになり、頑張ろうと決意するクウの気持ちに気付かせることができる。
・自分一人で魚を獲ることができ「やった、やったよ」と喜ぶクウの心情に共感させることで自分のやらなければならないことに気付き、難しくてもあきらめず最後までやり切ったことで味わえる達成感や充実感に気付かせることができる。

■　ねらい

自分がやらなければならないことは、人に頼ったりあきらめたりしないでやり抜くことで、達成感や充実感が得られることに気付き、自分で決めたことを最後までやりきろうとする意欲を育てる。

■　展開の構想

・うまくいかない悲しさやいらだち、母親に甘えたい気持ちに共感させる。
・「あきらめよう。だって・・・」、「がんばろう。だって・・・」という考えの・・・の部分を丁寧に取り上げ、多様な考え方を引き出す。
・自分がやらないと自分が困るから、苦しくても一人前になるにはやり抜くしかないことを知り、頑張ろうと決意するクウの気持ちに気付かせる。
・できたときのうれしい気持ち、自分の成長を実感する気持ち、次も実践したいという気持ちなど、多様な思いがあることに気付かせる。

■基本発問　◎中心発問

○「ねえ、おかあさんとってよ。」と言ったとき、クウはどんな気持ちだったでしょうか。
○「あーあ・・・。」とすわりこんでしまったとき、クウはどんな気持ちだったのでしょうか。

○クウが「よし！」と立ち上がったとき、心の中でどんなことをつぶやいていたのでしょうか。

◎一人で魚が獲れたとき、クウはどんな気持ちだったのでしょうか。

２　学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指　導・援　助
導入	◇シロクマの自立について考えさせ、価値への方向付けをする。 **○「今日の主人公はシロクマのクウです。クウもお母さんと離れて生きていかなくてはなりません。どんなことができるようにならないといけないと思いますか。」** ・ごはんを食べる。	・資料理解と価値への方向付けをする。 ・シロクマ親子の写真を見せる。２歳で独立して自分で生きていかねばならない現実を伝える。 ・自分一人で生きていくにはどういう努力が必要か、主人公を通して想起させる。
展開前段	◇資料提示（ペープサートによる提示）をする。 **○「ねえ、おかあさんとってよ。」と言ったとき、クウはどんな気持ちだったでしょうか。** ・うまくいかないから、もう嫌だ。 ・お母さんがいるから平気だ。 ・どうしてうまくいかないのだろう。 ・疲れたなあ。 **○「あ―あ・・・。」とすわりこんでしまったとき、クウはどんな気持ちだったのでしょうか。** ・寒いし、腕も痛いよう。あきらめよう。 ・お母さんに代わりにやってもらいたい。 ・何とか自分一人の力でとりたいな。 ・ぼくも一人前になりたいんだけど。 **○クウは「よし！」と立ち上がったとき、心の中でどんなことをつぶやいていたのでしょうか。** ・おかあさんが応援してくれている。 ・あきらめたら、ぼくは死んじゃうかもしれない。 ・自分も一人前のシロクマになれるように、頑張らなければいけない。 **◎一人で魚がとれたとき、クウはどんな気持ちだったのでしょうか。** ・お母さんも喜んでくれる。 ・自分一人の力でできて嬉しい。 ・途中であきらめかけたけど、頑張って、よかった。 **【深めの発問】お母さんに魚を獲ってもらった時と同じうれしさでしょうか。**	・主人公の気持ちに重ねて考えさせるために、ペープサートで動きを取り入れ、丁寧に演じる。児童の表情や様子を観察する。 ・魚を上手にとることができない時のクウの気持ちを考えることを通して、うまくいかない悲しさやいらだち、母親に甘えたい気持ちに共感することができるようにする。 ・「なんども　なんども」を繰り返し演じる。 ・「あきらめよう。だって・・・」、「がんばろう。だって・・・」という考えの・・・の部分を丁寧に取り上げ、多様な考え方を引き出して話し合わせるようにする。 ・母親の言葉から、自分ががんばらないと自分が困るから苦しくても一人前になるにはやり抜くしかないことを知り、がんばろうと決意するクウの気持ちに気付かせる。 **●言語活動の充実** 「よし！」の場面をクウとお母さんの役で演じ、苦しくても一人前になるにはやり抜くしかないことを知り、頑張ろうと決意するクウの気持ちに気付くことができるようにする。 ・最後までやり切った喜びをおさえる。 ・できたときのうれしい気持ち、自分の成長を実感する気持ち、次も実践したいという気持ちなど、多様な思いがあることに気付かせるために、ペアによる話合いを行わせる。
展開後段	**○これまでに難しかったけど、あきらめずにやり抜いたこと、やり続けていることはありますか。しっかりできたとき、どんな気持ちになりましたか。** ・ぼくは算数の宿題をやっていたら、わからない問題があって、考えてもわからなかったので、明日先生にきこうと思ったけど、やっぱり自分でできるようにしたいと思って、教科書をみてやったらできて、気持ちよかったし、うれしかった。 ・わたしは体育のなわとびでうしろとびが連続１０回跳べるようにするために、毎朝練習しています。３回までは連続で跳べるけれど、４回目でいつもひっかかってしまって、やめたくなってしまった。でも、あきらめずに１０日間続けたら、１０日目に７回跳べた。そしてその次の日１０回跳べた。がんばってやってよかったです。	・あきらめずにしっかりできた時の気持ちを書く。 ・児童の生活の中からいくつかの場面や事柄等を具体的に思い起こさせるようにする ・「わたしたちの道徳」P24・25 を活用し、家の人への事前インタビューなどをしておき、机間指導で振り返らせたい具体的な場面を提示する。
終末	◇教師の説話	・あきらめずにやりきったからこそ、できた時の喜びがある素晴らしさに触れ、自分の実践への意欲を喚起する。

３　道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

＜場の内容・ねらい＞　＜児童の意識＞　＜指導・援助＞

教科等
・常に小集団で協力して解く問題ではなく、一人で取り組む問題を与え、一人一人に粘り強く取り組ませ、解けた時の達成感や喜びを味わったりする経験を積み重ねる。

【日常の活動】
〇帰りの会
・毎日の「私のたからもの」の中で、「たからもの発表会」や宿題の提出にかかわる内容を意図的に取り上げ、事実やその時の思いを具体的に紹介する。

〇朝の会
・「わたしたちの道徳」p22～25 を利用して「勉強」「自分で決めたこと」について、自分がやらなければならないことをやりきっているか、自己評価させる。

・今日の学習は難しかったな。でも、自分で解けるとすっきりして、気持ちよかったな。
・「たからもの発表会」の練習をたくさんしたけど、ぜんぜんうまくできないな。

・授業で仲間と学び合う時間と個人で粘り強く取り組む時間を意図的に設ける。
・帰りの会では繰り返し挑戦する仲間の願いに気付くようにする。
・難しくてもあきらめず粘り強く取り組もうとする意欲を育むようにする。

学級活動
「たからもの発表会」
・２学期にできるようになったことは何か、勉強、係活動、鍵盤ハーモニカ、なわとび等を視点に振り返る。
・発表会で発表することを決める。
・どのように発表するかを決める。

・今日の学習は難しい問題だったけれど、家庭学習は自分でしっかりやらなければならないな。」
・当番活動や係活動は決められた仕事だから、やらなければならない。
・〇〇さんは係の仕事を頑張っているのだな、私もみんなのためにやり抜きたい。

・自分のやらなければならないことをきちんとやりきっている児童を認め、励ましていく。
・実際の場での意欲や態度に結び付けていくことで粘り強く挑戦し、やり抜くことのよさを感じて、自分のやらなければならないことをしっかりやろうとする心情を養う。

道徳の時間
「シロクマのクウ」
内容項目１－（２）
・自分がやらなければならないことには、人に頼ったり、あきらめたりしないでやり抜くことで、達成感や充実感が得られることに気付き、自分で決めたことを最後までやりきろうとする意欲を育てる。

・自分のやらなければならないことは、たとえ難しくてもやり抜くことが自分の成長につながるのだな
・自分のやらなければならないことをしっかりやりたい。

・お母さんに甘えようとする心と自立しようとする心の間の迷いを考えさせ、それを乗り越えたクウの達成感や充実感に共感させることで、難しくても自分のやらなければならないことをきちんとやることの大切さを考えさせる。

学年行事
「たからもの発表会」振り返り
・自分たちができるようになったことを発表し共に成長を祝う集会を振り返り、苦しくてもやり抜くことの大切さに改めて気付くとともに、やりきった満足感や充実感を実感することができる。

・「たからもの発表会」では、なわとびの後ろ連続１０回跳びを発表したよ。体育でいつも５回目になるとひっかかってしまって、嫌になってしまう時があったけど、２０分休みも家でも何度も練習して、だんだんできるようになって、今日はみんなの前で発表できて拍手もらえてうれしかったよ。

・「たからもの発表会」で期待される道徳性の高まりについて、保護者や地域の方に周知し、やらなければならないことをやり抜くことの喜びや意義について認め、価値付けてもらえるようにする。

シロクマの　クウ

シロクマの　クウは、もうすぐ二さい。きょうも　おかあさんといっしょに　さかなを　とる　れんしゅうです。

「あっ、にげられちゃった。ちっともうまく　いかないなぁ。」
「そおっと　ちかづいてから　とびこむのよ。」
「ねえ、おかあさんが　とってよ。」
「どの　こも　二さいに　なると、おかあさんと　はなれて、　ひとりで　くらすのよ。じぶんで　たべものを　とれないとこまるでしょう。」
「うん・・・・・。わかった。こんどこそ、とって　みせるよ。」

つぎのひも、クウは　おかあさんと　さかなを　とりに　いきました。
「あっ、あそこに　おおきな　さかなが　いるぞ。それっ！」
しかし、さかなは　すぐに　にげて　しまいました。ちからいっぱいおいかけますが、ちっとも　さかなが　つかまり　ません。
なんども　なんども　とろうと　しますが、一ぴきも　つかまえられません。だんだん　うでが　いたく　なってきました。
「あーあ・・・・・。」
クウは　つかれて、とうとう　こおりの　うえに　すわりこんで　しまいました。

しばらくして、クウは　おかあさんが
こちらをみていることに　きが　つきました。

クウは、しばらく　かんがえていました。
「よし！」
クウは　たちあがると、ねらいをさだめて、ゆっくりと　さかなにちか

づきました。そして、ちからいっぱい　とびこみました。

ザブーン

クウが　にぎった　てを　ひらいてみると、なんと　ねらった　さかながはいって　いるでは　ありませんか。

「やった、やったよ！」

その　ようすを　みて、

おかあさんは　にっこり　わらいました。

クウが　一にんまえに　なるのは、　もうすぐです。

内容項目　一―（二）

出典　小学校道徳読み物資料集

（平成二十三年三月　文部科学省）